
一般講演・口頭発表 O-05

佐賀を中心としたアカミミガメのハス(蓮)食害に関する事例紹介

有馬 進(佐賀城お堀のハス再生プロジェクト)

The case of feeding damage of the lotus by red-eared sliders around Saga prefecture

Susumu ARIMA (Conservation group for regeneration of lotus in Saga castle)

本報告は、北部九州におけるミシシッピーアカミミガメの被害状況を示したものである。すなわち、2007年に、アカミミガメの食害により消滅した佐賀城お堀におけるハス再生の方策として、2008年から2010年にかけてカニカゴ罟捕獲によるカメ密度低減を図った。また2010年に、同堀にカメ侵入防止網を張り込んだ隔離区にハス苗を移植したところ、茎葉が順調に繁茂して開花にまで至った。また、2011年には、隔離区外にも茎葉が伸長して繁茂して開花が認められた。対象区では、移植苗はカメの食害により生育できず消滅した。一方、試験栽培区周辺のアカミミガメの生息密度が低下したことで、2011年には、隔離区近辺で2006年に消滅したヒシが出現して繁茂した。したがって、佐賀城お堀におけるハスとヒシの消滅がアカミミガメの食害によるものであったことがほぼ確認された。以上の結果は、すでに、「佐賀城堀における蓮減少とアカミミガメの防除」と題して「亀楽」2011年No.2, 1-3ページに掲載した。

また、近年、福岡県においても、福岡市中心部の舞鶴城公園の堀のハスもアカミミガメの食害により消滅傾向にあるため、カメ防除やハスの隔離網栽培が始められている。さらに、福岡県南部の大木町や筑後・柳川地区でもアカミミガメの増殖が著しく、ヒシはじめとする水生動植物の被害が発生しつつある。